私の履歴書

栄久庵憲司 ㉛

人づくり 時代づくり

創造の楽しみ、今なお夢中

天命

GKグループを作った時、芸大の先輩が「芸術家肌の芸大生にチームワークは向いていない。三つの危機でGKは必ずつぶれる」と言った。恋人ができた時、結婚、子供ができた時で、自分を守ろうとエゴイズムに陥るからだという。先輩は矛盾を含む個と全体の問題を指摘したのだ。グループ成立の初めから、モノだけでなく、人の調和の〝デザイン〟が求められた。

しかし私は、女友達もいたが、仕事に夢中で結婚を考える間もなく、気がついたらいい年になっていた。先輩が危惧した危機に出会うことなく、GKという創造集団の中心に立っていた。GKという創造の発生体を独楽のように回し続けることで組織創造力が増し、組織は美しく保たれる。大学時代の体験から「ドリーマーズ」というラグビー部を作ったが、「オール・フォー・ワン、ワン・フォー・オール」の精神が大切だ。

昭和三十八年（一九六三年）に社員の半分に当たる九人を三カ月間、欧米の大学やデザイン事務所に〝武者修行〟に出した。五百万円の費用は、将来デザイン村をつくろうと所沢に買った土地を売り捻出した。渡航前にホテルで食事マナー、チップの渡し方も特訓した。このダイナミックな大量派遣はデザイン界で評判を呼んだ。九人は幹部になったが、この海外派遣で組織の創造力がアップした。

私はGKという創造体を育てることに天命を得た。回転力を失った独楽は醜い。GKが回転する限りデザインの社会性が高まり、組織も繁殖力がつく。グループは十三社になり、社員も二百五十人を数え順調に成長している。

GKは営利事業体だけに事業の理念が必要だ。最近亡くなったヤマハの川上源一さんは「人のために役立つものをもって事業となす」という易経の言葉を座右の銘とし、事業の厳しさを教わった。

川上さんからある冬、「契約しないよ」と言われた。プラスチック関係でよその仕事をしているのがわかってしまったのだ。なぜそうしたのかと聞かれた。マントルピースに火をくべる川上さんの背中だけが見えた。言い訳が喉まで出かけたが、「お金がほしかったのです」と正直に言った。「そうか」の一言だったが、翌月から契約が増えた。

実に多くの人との巡り合いで助けられてきた。昭和二十年、海軍兵学校の針尾分校で一緒に入校式を済ませた海兵七十八期の仲間は忘れ難い。今もビジネス界で活躍しているのが、今井敬新日本製鉄会長、今村治輔清水建設会長、成田豊電通会長らである。

東京・海禅寺の禅僧、後藤栄山師はよい話し相手だ。

ヘルシンキ芸術大学の名誉博士号授与後のパーティーで博士号の帽子をかぶる筆者㊥（2001年１月）

平成十二年（二〇〇〇年）に、浜松にできた静岡文化芸術大学のデザイン学部長に就任した。政治学者、高坂正堯氏の前々からの依頼によるものだ。ヤマハとの永い縁があり、浜松の恩顧に応えるため申し出を了承した。浜松には国際的企業も多く、イタリアのメディチ家が育てたフィレンツェのような創造都市浜松への期待もある。何よりも未来を担う若い学生が眼前にいる。

私の履歴を顧みた時、人をつくることが、時代をつくることに通じると確信する。

（インダストリアル・デザイナー）

＝おわり

あすから東映相談役 岡田茂氏